

■ ワークショップを終えて

今回は初参加の方も4名お迎えして、新たな視点でのご意見を含め、景観づくりについて話し合うことができました。

特に今回の結果では、藤川地区の皆様の歴史的なまちなみの維持や再生に対する熱い思いを感じることができました。一方、ワークショップの感想からは、まだ「実現は難しいのでは…」といったご意見もあり、ワークショップのみでは拾いきれない意見や要望があるのか、と感じるところもありました。

そこで事務局では、主に旧東海道沿いにお住まいの方を対象にアンケートを実施し、ワークショップに参加していない方々を含め、幅広く藤川地区の景観づくりについてのご意見を集めたいと考えております。結果は、今後の藤川地区の景観づくりに反映させていただきますので、ぜひこの機会に皆様の思いをお伝えください。

ご意見をお聞かせください

今後、主に旧東海道沿いにお住まいの方を対象に、景観づくりに関するアンケートをお願いする予定です。ご協力をよろしくお願いいたします。

■ お知らせ

来年の5月頃に第4回ワークショップとして、「意見交換会」を行います。これまでのご意見を基に、市が作成した藤川地区の景観づくりをすすめる範囲や方針、ルールを示した素案について、皆様からのご意見をいただく予定です。その後、地域らしさを活かしたきめ細やかな景観まちづくりをすすめるため、藤川地区の景観づくりのルールを平成23年4月に施行予定の「岡崎市景観計画」として定めます。

平成22年度5月の意見交換会の詳細については、決まり次第ご連絡いたしますので、皆様ご参加くださいますよう、よろしくお願いいたします。



◆ お問い合わせ先 ◆

岡崎市役所 都市整備部 都市計画課
電話:0564-23-6522 FAX:0564-23-6514
メール toshikei@city.okazaki.aichi.jp

参加者の皆様、ご協力ありがとうございました！

子供や、その先の世代に「このまちに住みたい！」と思ってもらえるようなまちにしたい。

ワークショップの感想

- ・はじめて参加しましたが、皆さんが一生懸命だったのに感心しております。
- ・風景の統一を、まち全体に展開するのか、本陣まわりに絞るのか、と整理がつき始めたと感じました。他地域の例で、住民の経験談などあれば聞きたい。
- ・皆さんが藤川のまちなみをあまりくずさないように考えていることがよく分かりました。
- ・この計画は何年計画なのかといった具体的な話をしないと、理想ばかりになってしまうのではないかと。
- ・家主の気持ちと金銭的なことを考えると難しい点が多いと思う。



藤川景観ワークショップニュース

かいらん

Vol.3 2009年12月
編集・発行 岡崎市
都市整備部 都市計画課

藤川景観ワークショップの第3回は、「効果的な景観づくりの手法」をテーマに開催されました。



ワークショップの様子

■ 第2回ワークショップの概要

11月15日の夕方に、第3回藤川景観ワークショップが開催されました。

第3回は、第2回で実施した「藤川地区がめざす景観づくり」を実現させるための「効果的な風景づくりの手法」について、藤川に現存する町家の一つである米屋を例に話し合いました。

良好な景観をつくるための具体的な方法や問題点、取り組む範囲を考えて、藤川地区の景観づくりについて、実際に行うことのイメージを高めました。

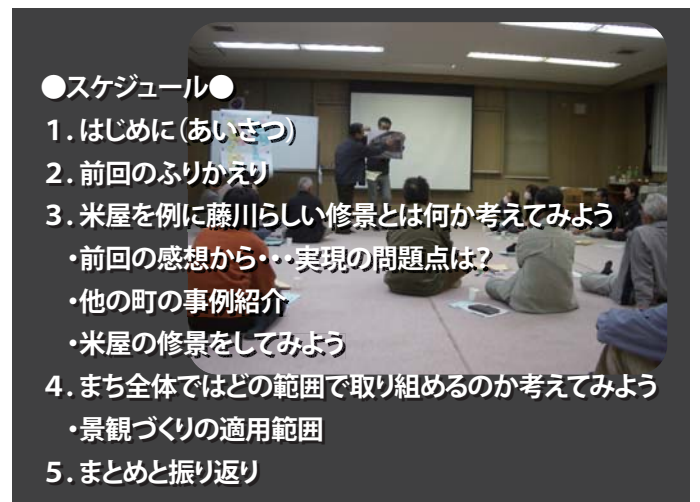
ワークショップの様子



■米屋を例に考えてみよう
今の米屋の建物について、どこをどのように変えると藤川らしい景観となるのか?また、変えることで問題はないのだろうか?ということをお話ししました。

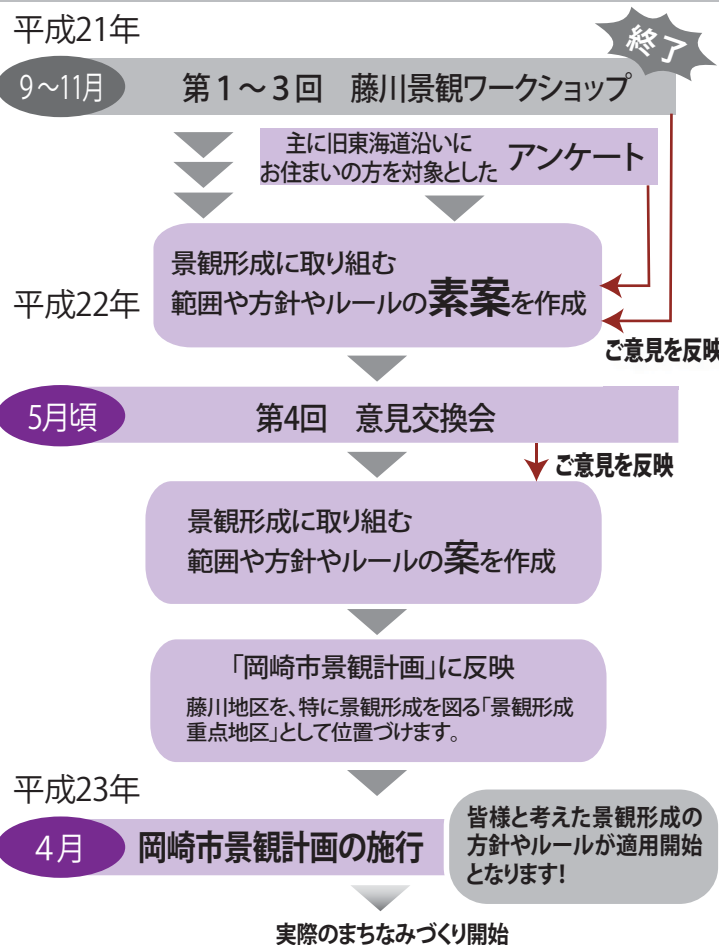


■まちで取り組めることは?
藤川らしいまちなみをつくるためには、米屋で考えた修景のデザインについて、まち全体ではどの範囲で取り組むのがよいだろうか?ということをお話ししました。



- スケジュール●
1. はじめに(あいさつ)
 2. 前回のふりかえり
 3. 米屋を例に藤川らしい修景とは何か考えてみよう
 - ・前回の感想から...実現の問題点は?
 - ・他の町の事例紹介
 - ・米屋の修景をしてみよう
 4. まち全体ではどの範囲で取り組めるのか考えてみよう
 - ・景観づくりの適用範囲
 5. まとめと振り返り

藤川地区の風景づくり～今後の予定



※5月の意見交換会については、詳細が決まり次第、ご連絡します。

■ 藤川らしさとは…米屋を例に修景を考えてみよう！

修景とは建築物の見た目を周囲に調和させることを指します。第3回は、藤川らしい景観をつくるために、建築物をどのように修景すると良いのか？ということについて、藤川の町家の一つであり、すでに景観づくりに関連した取り組みが始まっている米屋を例に考えました。

また、第2回では、100年後の藤川を想定して自由に景観をイメージしましたが、「理想はよいが、現実的には問題もあるのではないか？」といったご意見も挙げられたため、歴史的なまちなみづくりを進めるうえでの不便さや、近代化した生活をおくる上での問題点に

についても話し合いました。

話し合いでは、概ねの方が「歴史ある景観づくりを推進するのがよい」というご意見であり、問題点についても、ほとんど挙げられませんでした。藤川地区の皆様は景観づくりに対する強い想いを感じられる結果だったといえます。

一方、格子戸については、防犯上の問題点などがあがっており、格子戸とサッシ戸を2重構造にしたり、通常はシャッターを上げておいて飾りの格子戸を見せ、夜間や非常時にはシャッターを閉めるようにするなどのアイデアやご意見もありました。

■ まち全体では、どの範囲で取り組むことができるか考えてみよう！

先に米屋で考えた、景観づくりのための修景方法は、あくまでも一軒の建築物を対象としたものでした。しかし、まちなみとは、複数の建築物によって構成されます。つまり、よいまちなみをつくるためには、ある程度の範囲を定めて全体で取り組む必要があります。

このため、米屋で考えた修景方法を、まちのどの範囲で取り組んでいくのがよいのか？ということをもみなで考えてみました。

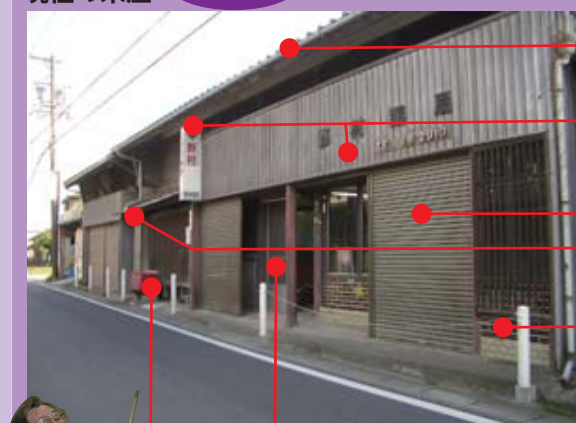
今回、提案された修景方法は、主に宿場町らしさを感じられるように建築物を修景するものだったこと

もあり、ほとんどの項目で「東海道沿い」で取り組むのが良いという結果となりました。

一方、建築物の箇所によって、取り組む範囲に差があるものもありました。たとえば、「瓦の色」については「まち全体で」という広い範囲を対象とした意見が多く、格子をつけるのは「本陣の周辺に集中的に行うのがよい」という限られた範囲を対象とする意見が多くありました。

米屋は藤川に残る、江戸時代の町家のひとつです。定期的に行われるまちづくり勉強会の会場となったり、来訪者への開放（日曜日）が実施されるなど、藤川のまちづくり活動の場としての活用がはじまっています。今回は、「藤川らしさ」を考えて、自由な修景意見を出していただけるよう、皆様によく知られた米屋を例とさせて頂きました。

現在の米屋 修景前



結果のまとめ

1.米屋を例に藤川らしい修景を考えてみよう！

	修景方法	まとめ
シャッター	・撤去 ・格子戸にする ・鉄柱ははずす	・格子をつける
屋根・瓦	・軒屋根を復活する ・落ち着いた色にする ・黒又はグレーにする	・屋根瓦は黒やグレーにする
看板	・撤去する ・木製にする	・看板は木製や落ち着いた色にする
樋	・落ち着いた色にする ・銅製にする ・昔風の樋にする ・竹筒風の塩化ビニル管にする	・雨樋は銅や竹筒風の歴史を感じられる素材や色にする
腰壁	・サッシ下のタイルは取り除く ・板張りする	・腰壁は板張りにする
屋外設備	・消化ホース箱を色と形を変える ・赤い消火器箱は、木製の箱にする ・エアコン室外機は木製の枠で囲う	・消防器具やエアコン室外機は、まちなみに合った素材や色にする
壁	・白色にする ・漆喰または珪藻土などにする	・壁の色は白やグレー、黒など落ち着いた色にする

2.まち全体にあてはまることは何か考えてみよう！

個別の家	本陣周辺	東海道沿い (西棒鼻～東棒鼻)	まち全体	その他
●	●●●※	●●●	●	※順次拡大していく。 最終的には東海道沿いに広げる。
	●※	●	●●●●●	※順次拡大していく。 最終的には東海道沿いに広げる。
	●●●	●	●●●	
●●		●●●	●	
●	●	●●●※	●	※住宅に限定する。
●	●※1	●●●●※2	●●●	※1 順次拡大していく。 最終的には東海道沿いに広げる。 ※2 家に限定する。
●		●●●●●※	●●	※順次拡大していく。 最終的には東海道沿いに広げる。

8班のご意見の集計（1班分のご意見が1つの●で示されています。）
各範囲の中で最も●の数が多かった範囲に の色がついています。

参加者の皆様に好評だった8班のイメージする米屋 修景後



格子だけでは防犯上の問題が…

シャッターは取り外したほうが…

うちは板壁があるけど、特に問題は感じませんよ。

タイルは板塀に…

瓦の色を変えても問題はないよ。

瓦は黒か灰色の落ち着いた色に。

格子はどの範囲が適切だと思いますか？

あまり広い範囲はできないかもしれないね。

東海道沿いかな？

看板についてはまち全体でできるかな？

瓦の色はどの範囲かな？

瓦の色がばらばらだと見た目がよくないね。

瓦なら、まち全体でどうかな？

効果的な景観づくりの手法とは？

基本的には東海道沿いで取り組む。

まずは本陣を中心とした景観づくりを！

瓦の色はまち全体でそろえる。